

9月例会 9月16日(金) ストーリーテリング「心を伝えよう」



35期が始まり最初のプログラムは、「百万回生きたねこ」と「わすれられない贈り物」の2冊の絵本のストーリーテリングでした。

初めに「百万回生きたねこ」作 佐野洋子の絵本を会員が順に朗読し、ゆっくりと読み進みました。パワーポイントを使って映し出されてゆく1ページ1ページは一層わたくしたちを深〜い感動の世界にいざないました。私たちの一度しかない人生を考える良い機会を与えてもらいました。

もう1冊は、「わすれられない贈り物」作、絵 スーザン・バーレイかけがえのないものを失った時、私たちは、それをどのようにして乗り越えて、残された思い出を大切な贈り物として生きていったらよいのか多くのことを教えてくれた絵本でした。プログラム委員会からの、大人の絵本2冊の贈り物に感謝します。(会長 横地)

10月例会 10月21日(金) 「35期記念旅行は北海道がよい」



阿寒湖



ハウステンボス

会員は、お薦めの旅行先をパワーポイントを使って 各地の魅力的な観光スポット、素晴らしいホテル、高級お宿の紹介などが詳しくリサーチがされ、説明をしながらの進めるプログラムでした。座って沖縄から北海道の旅を満喫できました。

全員参加でパワーポイントの効果はよりプログラムをより充実させ楽しいものでした。(西脇)



沖縄

11月例会 11月18日(金) 持ち出し例会 「名古屋城本丸御殿・菊花展」

名古屋城本丸御殿見学のため、隣にある能楽堂の中のお食事処「大森」でビジネスを兼ねてお食事、小堤の音色を聴きながらひつまぶしをいただいた。

その後名古屋城へ移動。天気にも恵まれ ちょうど菊花展も併設しており きれいな花を眺めながら本丸御殿へ。総ヒノキ造りの香りもかぐわしく、模写ではあるが襖絵も素晴らしく、お願いしてあったガイドさんの説明も詳しいもので、改めて 名古屋城の歴史を勉強できた一日でした。

(湯浅)



12月例会 12月16日(金) ワークショップ 「癒しのキャンドル」



会場に一步入るとクリスマスモード！

12月例会が なにかしら 暖かい雰囲気にもまれて始まる。

キャンドルづくりのプログラムに向けて心はそわそわ。 さて どんなキャンドルが出来上がるのやら。

それぞれ 工夫を凝らして個性あふれるカラフルな作品が仕上がっていく。

キャンドルってこんな風に作るの??.....

出来上がった作品に一言入れて披露。

作品の喜びを味わいました。

クリスマスソングや栄クラブ「歓びの歌」で 12月例会を締めました。(坂本)

1月例会 (1月20日) 「暮らしの手帳から学ぶ」

NHKの朝のドラマ「暮らしの手帳」・・戦後 これからと未来に向かって 又女性、主婦が家事諸々の 便利で工夫され、女性が 生き生きと生きる指針であったと思われます。

会員 各々表紙絵を描き 張り出し鑑賞しました。それぞれの生活、好み、性格等が出て興味深かったです。

双六でサイコロをそれぞれ振り いつ双六をしたのか？ 懐かしく思い出されました。笑いながら、楽しみながら時を過ごし 景品もあり・・・「これでますます 栄クラブも栄えると思います」とのプログラムリーダーの言葉です。

楽しいひと時でした。(岩間)



## 2月例会 (2月17日) 「スピーチコンテスト・デモンストレーション」

今年のスピーチコンテストはデモンストレーションとなって3回目 栄は各年のデモで開催。今回は始めて一人のスピーカーで行われました。 論題「視点」を受けて、題目「感動する心」・・・日常生活のなかで気力や感動することの低下に気づく昨今、身につまされていることが重なり合い、思わず引き込まれ、目の醒める思いがいたしました、そして勇気を与えて貰えた素晴らしいスピーチでした。

リラックスタイムは3種の紙面による資料を使って日本語の再確認のお勉強をいたしました。例えば {以って非なる言い回しを整理しよう} のコーナーでは～気力の無いプレーを見て選手に大きな声で活を入れた **喝ではなく活**なのです。 {最低知っておきたい敬語の基本} のコーナーでは～当店では、割引券が**ご利用できます** ではなくて**ご利用になれます**なのです。

フムフム・・・アラアラ・・・エエッ! などなど

“為になる” プログラムでした。

(加藤)

## 3月例会 (3月17日) お薦めプログラム 講演 「ブランドと広告」

3月例会プログラムは、梶山女学園大学教授 山川雅哲氏による「ブランドと広告」と題する講演で、20名を超えるゲストをお迎えして賑やかな例会となった。冒頭の部分、日本が戦後 経済復興し人々の欲望が変化する中、ブランド志向に目覚めていった過程のお話では、私達の辿ってきた

姿を重ね合わせて納得。そして更に、インターネットの新しい広告手法でブランド認知力を高めた「ユニクロ」、マドンナをモデルに使い新境地にチャレンジした高次元ブランド「ルイ・ヴィトン」、”3分間クッキング“を継続しづける手法で成功している低次元ブランド「キューピー」…等々、刻々と移り変わる社会の中で ブランドが人の心をいかに掴み、深層にいくいかに興味をそそる話が映像とともに次々と展開される。ご指摘にあったように、「現代の広告はまさに送り手と受け手とのコミュニケーション」なのである。送る側の‘人の心理を突く巧みなコミュニケーション’を受けて立つ私達、賢い消費者になるのはなかなか難しそう・・・。

先生のユーモアを交えたテンポの良いお話、数々の映像に、あっという間に予定の時間が過ぎていた。「もっとお話をききかった」という声もあちこちで聞かれ、好奇心を刺激された講演でした。  
(落合)

#### 4月例会 (4月21日) 「輝く女性の生き方」

今月のプログラムは、パワーポイントを使ってのリサーチスピーチ 「輝く女性の生き方」と題し 3人の女性を取り上げた。



「不変のものなど何もない。だから頼れるのは自分だけ これがつらい思いをして学んだことよ」世界を魅了したファーストレディー ジャクリーヌ・ケネディー・オナシス。セクシー女優の代名詞として 世界中から愛されているマリリン・モンロー。500年に一人といわれる大女優も 人知れず重い劣等感を抱えていた。

鉄幹を愛し、歌を愛し、自分を大成させたいという強い夢。これを実現させるため、あらゆる困難を乗り越え挑戦した与謝野晶子。

人から与えられるものを受け取るだけでなく 切り開くことの大切さ、そして自分を見失わないで、輝く女性でいられるよう努力することを 改めて再確認。人は誰でも失敗することはあるけれど、そんなことを恐れず 自分の目標を大切に、自分をしっかり持って生きることの大切さをメッセージするプログラムでした。(岡田)

#### 5月例会 (5月18日・19日) 「栄クラブ35年記念旅行」

栄クラブ35年の歴史の1ページを飾るべく、会員10名は三重県 鳥羽へ向かった。道すがら圧倒的な緑の原生林を進むうち突如姿を現したのは、今回例会を行う御宿ジ、アースである。



御宿の窓辺からは、青い海原の地平線がどこまでもつづく太平洋が望め、小島の磯に白い波が碎ける絶景であった。記念例会は、横地会長のスムーズな議事進行のもと、各種審議の後、「国際からの ITC 解散決議案」の発表を受け、日本リージョンからの活動継続勧告を検討した。思い出のプログラムのスピーチは全員参加で、35 年を懐かしみ記憶の糸をたぐり寄せつつの 1 分スピーチにうなずき共感したのだった。

日頃の喧騒を離れて自然に同化出来、心地よい時を過ごせたのも、準備委員会のお世話や素敵な宿を紹介下さった会員に感謝しつつ、栄クラブ 35 年記念例会の 1 泊旅行は会員の心の奥に強烈な思い出を残した。  
(河津)



## 6 月例会 (6 月 16 日) インスタレーション・プログラム「ITC を考える」

今期最後の例会は恒例のインスターレーションがあり、加藤新会長は来期のテーマを「たおやかに つなぐ ころろ響かせながら」と発表されました。新会長のお洒落でセンスの良さを感じさせるこのテーマとともに栄クラブの第 36 期が始動いたします。

プログラムでは「ITC を考える」のテーマのもと、一部はリージョン大会 TTP, ビジネスで議題となりました「ITC 解散決議案」について、横地会長のリードでリージョン年次大会での経過説明や質疑応答が持たれました。横地会長の危機管理委員会から報告、解散に至る経緯の説明が丁寧になされたことで会員は皆的確な現状把握がされたと思います。

続いて第二部でブレインストーミング「日本リージョン継続の形を考える」ではすべてのクラブ員が活発な意見交換をした。栄クラブ会員は皆前向きで、来期もパワフルに活動していくのではないかと感じられました。

閉会時間が迫る中、まだまだ話たりないという雰囲気でしたが、会長はきちんとタイム管理され、続きは閉会後に場所を変えてとリードされました。

最後に私たちの宝物となりました「栄クラブ 喜びの歌」を皆で歌い今期を締めくくりました。例会を終えた会員は達成感と充実感に満ちた顔、顔、顔

皆素敵に輝いていました。(濱田)